# しまむにをつなぐ仲間たち

しまむに ちなぎぬ あぐんちゃ

**しまむにの継承活動は、どこで、どんな人が、どのように取り組んでいるのでしょうか？そんなしまむにをつなぐ「あぐんちゃ（きゃ）」（仲間たち）を紹介します。**

※見出しのしまむには、田皆字の田邊ツル子さんに教えてもらいました。




## CASE 01

## 教職体験を糧に、田皆のみんなでしまむにを未来へ

**田邊 ツル子**さん

### 記録があれば方言は復活できる

2025年8月末、沖永良部島の北西にある田皆（たみな）字で、一冊の本が刊行されました。島内屈指の観光地である田皆岬が表紙の「たんにゃむに辞書」。同字のしまむにを1200語収録した辞書です。発起人は、同字出身で元教職の田邊ツル子さん。

きっかけは2022年5月、研究者が始めた公民館講座「しまむにサロン」に参加し、辞書づくりの意義や方法を学んだことでした。教職時代も郷土学習の一環として子どもたちがしまむにを学ぶ時間こそありましたが、元々は家庭や地域で使われてきたもの。継承に限界を感じてきた中で、「ハワイ語などの言語は過去の記録を元に復活した」という話を聞き、田皆字の辞書づくりへの挑戦を決心しました。

辞書づくりは基本的に、語彙調査と録音が中心。個人活動から、有志で事務局を立ち上げ、百歳超を含むしまむに現役世代に編集委員に加わってもらうなど、その輪が広がっていきました。田皆字のしまむには島でも独特といわれ、例えば砂糖を意味する「さた」を「さぁーた」と呼ぶなど、そこにはかつての日本の古語が息づいているといわれます。

### 世代によって使い方はさまざまの辞書

そうして辞書第一版が完成。田邊さんは「皆さんが頑張った証を早く形にして、達成感を味わってほしい」という思いが強く、そのため装丁にもこだわったと話します。

辞書は、製本版でもオンラインでも見られ、QRコードを読み込めば音声も聞け、またAI方言学習ツール「AIたんにゃん」も同時公開しました。田邊さんは「しまむに現役世代は懐かしんでもらい、聞いて分かるけど話せないという人は学習に使ってもらい、子どもにはAIで楽しく学んでほしいです」と、世代ごとの使い方を呼びかけています。


たんにゃむに辞書の完成お披露目会で、「モーヤー」を踊って会を締めくくる田皆字の皆さん


研究者と共に、辞書づくりを行う田皆字の皆さん

**田邊 ツル子**
たなべ つるこ

1961年生まれ、田皆字出身。教育畑で40年。島内の大城小学校の校長職を最後に退職。知名町の公民館講座で方言の辞書の存在と手法を知り、地元の方言辞書「たんにゃむに辞書」編さんに着手。2025年に第1版を刊行した。



## CASE 02

## つないで、あと押し！しまむに継承の応援団長

**田中 美保子**さん



### 6月2日は〝しまむにの日〟

沖永良部島と同じ奄美群島の奄美大島では方言を「しまふとぅば」と呼び、218（ふとぅば）の語呂合わせで2007年から2月18日を「方言の日」としていました。そのことになぞらえて、沖永良部でも、数年前から、62（むに）の語呂合わせで「6月2日をしまむにの日と呼ぼう」という声が上がっていました。

そんな「しまむにの日運動」ともいえる動きの旗振り役の一人が、「島ムニむんちゃの島ムニ保存会」代表の田中美保子さん。2022年に島の郷土史家の先田光演さんの提案をきっかけに、毎年の6月2日前後にはイベントを開催し、島のしまむに愛を盛り上げてきました。今年は、意見交換会や郷土菓子作り、島外からやってきた研究者の講演、しまむにグッズ制作などのイベントを開催。島の各地で、島民たちがしまむにに触れて、見て、語り、考える一週間になりました。

### 絵本を読み聞かせて40年

田中さんの専門は幼児教育。40年以上、幼稚園の先生として過ごしてきました。とくに勤務地であった和泊町の大人は教え子ばかり。田中さんは「卒園から何十年も経った今でも、いろんな場面で助けてもらえます」と嬉しそうに話します。

そんな田中さんがしまむにに強く惹かれたきっかけは、絵本の読み聞かせ。20年前に幼稚園で島の伝承を紙芝居にしたところ、子どもたちが興味を示してから、しまむにによる読み聞かせを取り入れていきました。幼稚園は2025年に休園してしまいましたが、現在は、小学校で方言かるたを使った郷土教育などを通して、しまむにの継承に取り組んでいます。

その原動力は、田中さん自身がしまむにに囲まれて育ったことはもちろんですが、島の先輩から言われたある言葉でした。「しまむにぬなーになゆむでぃぬくとぅわまぬなーになゆむでぃぬくとぅどー（しまむにがなくなったら、この島はえらぶじゃなくなるよ）」。「本当にその通りだと思います」と、田中さんは振り返ります。

しかし、懐かしんでいるだけでは未来にバトンは渡せない。そこはさすがは幼児教育の専門家。絵本の読み聞かせや手遊び歌などはもちろん、しまむにで教えるお菓子づくりなどを通して、上手に子どもたちも巻き込みます。

### つながれ、ひろがれ、しまむにむんちゃ！

田中さんが立ち上げた「島ムニむんちゃの島ムニ保存会」の「むんちゃ」は「人たち」で、「しまむにを保存する仲間たち」を表します。人懐っこい笑顔と愛嬌たっぷりのおしゃべりで、自然と周りに人の輪ができている田中さん。まさしく「島ムニむんちゃ」です。


しまむにを使って寸劇を披露する田中さん（右）


しまむにを教えながらお菓子を作る様子

周りには、大人や子どももちろん、島での方言継承の盛り上がりを聞いて駆けつけた研究者も。6月2日前後に始まったイベントも年々回を重ねるたびに賑わいが増しています。「取り組みを知って、『がんばってるね』『しまむにのグッズをもらってうれしかった』と声をかけてくれる人が増えてきたと感じます」と言い、ほほ笑む田中さん。

そんな、しまむにを大切に思う人々をつなぐ「しまむにコーディネーター」として、田中さんは今日もどこかで、しまむにむんちゃたちの輪をつなぎ、ひろげています。

**田中 美保子**
たなか みほこ

島ムニむんちゃの島ムニ保存会代表。1959年生まれ、国頭字出身。幼稚園に44年間勤めた後、小学校職員として今も幼児教育の現場に関わる。これまでに絵本を読み聞かせた島の子どもは5,000人以上。